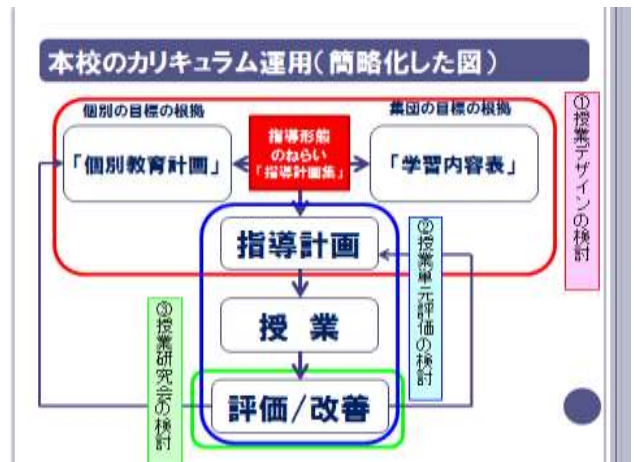


今年度の学校研究について

研究部長 吉井勘人

本校では、平成19年度から平成24年度までの6年間を通して、子どもたちに「何を」、「どのように」教えるのかといった視点からカリキュラム（教育課程）開発に関する研究に取り組んできました。まず、前半の3年間は、子どもたちに「何を」教えるのかといった視点から、幼稚部から高等部までの子どもたちに身につけさせたい教育内容を系統的に配列した「学習内容表」の編成を行いました。学習内容表は、他者との関わりや集団活動に参加する力を育む「関係の形成と集団参加」領域を中心として、「生活」「認知」「身体・運動」「情操」「社会生活・進路学習」といった7つの領域で構成しました。後半の3年間は、「どのように」教えるのかといった視点から「生活」「音楽」「造形」「体育」などの授業の形態ごとに系統性・一貫性を保障するモデルの指導計画集を作成しました。

今年度は、これまで6年間かけて開発してきたカリキュラムを実際に運用し、実践的に検証する取り組みを行います。具体的には、右の図で示しましたように、「学習内容表」、「個別教育計画」、大塚モデル「指導計画集」を用いて、授業づくりを行い、より質の高い授業づくりの在り方について検討していきます。また、カリキュラム研究の成果を書籍としてまとめ、出版することを計画しております。



スマイルと学校長の話がコラボ

ご存じのように、毎週月曜日の合同朝会では、初めに校長先生のお話があります。校長先生は毎回、絵がたくさん入ったわかりやすいプレゼンテーション資料を準備して臨んでおられます。

また、保健・給食部からは毎月「スマイルだより」が発行され、月ごとの保健目標があげられています。

校長先生は、毎月のお話のテーマをスマイルにあげられている毎月の目標と連動させています。



みんなで意識し、繰り返し、積み重ねていくことにより、確かな力として身についていくことでしょう。ご家庭でも同じように話題にしてみてくださいね。

今月のよてい

- 3日(月)～高等部第一次現場実習
- 5日(水)学長来校
- 7日(金)保護者会
- 13日(木)避難訓練
- 17日(月)サロン・ド・オオツカ
- 21日(金)授業研(小中学部)
- 22日(土)教員免許状更新講習
(月曜日課)
- 24日(月)振替休業
- 25日(火)～中高個人面談
- 26日(水)乳幼児教育相談
- 27日(木)附属小と交流



5/18 運動会 応援ありがとうございました

今年の運動会は幾つか変化のあるプログラムの内容でしたが、様々な障害を持つ子どもたちが、自分のできることをしっかり取り組み、先生方の演出の工夫で、見応えある発表が多かったと思います。また、仲間を応援するテント席の様子もすばらしかったと思います。

大玉転がし・・・勝とうとする意欲が両チームから伝わったので、目を奪われました。



年々パワーアップしているのか、見応えが増しているように感じます。先生方の(当日の)支援が少なくなり、ドキドキする場面もありますが、その子どもたちの成長がより感じられました。

いろいろな障害を持つ子どもたちの突然のアクシデントに際しても、慌てず対処する先生とあたたかい目で見守る保護者がいて、心温まる運動会でした。

重度の子どもたちにとって(また親にとって)、運動会は楽しいばかりの行事ではありません。“本番でうまくいく”は奇跡に近いです。しかし、納得のいくパフォーマンスができれば、大きな自信、達成感、何よりすてきな思い出になります。大塚は“発信”する学校として、全国に運動会の在り方も伝えてほしいです。これまでのトラウマを克服できた今年の運動会には感謝です。

小学部リレー・・・個人個人が、今、できる限りのがんばりを見せてくれました。来年度の成長が楽しみになる競技です。

学生さんがたくさんきてくれました！応援・感想ありがとうございました！
介護等体験・・・筑波大学
中央大学理工学部
参観・・・中央大学心理学部
田園調布学園大学
立教女学院短期大学

中学部リレー・・・真剣な表情でがんばって走る姿を見ることができました。手助けが必要な生徒への対応がそれぞれあり、先生方のフォローと親御さんの応援が走りきる力となっていました。

・個人による徒競走では味わえない、お友達と力を合わせる、自分も〇チームの一員だという所属感をしっかり味わえたように見えました。



高等部リレー・・・迫力がありません。やはり高等部になりますと、勝敗にもこだわりがあるかに見えました。それもまた必要なのかなと思いました。

・勝負の展開がわからなく、みている側も楽しくなりました。来年もファイトです。

Q&Aコーナー

このコーナーでは、皆さんが知っているようで、実はよくわからないということを取り上げます。



Q:ぜんふれん(全附連)とは、なんですか？

A:全国の国立大学法人中、56大学には合わせて261の附属学校、附属幼稚園があり、約10万人の子どもたちが学んでいます。そこに勤務する教職員で組織しているのが「全国国立大学附属学校連盟」、附属学校PTAで組織しているのが「全国国立大学附属学校PTA連合会」です。二つの組織を合わせた呼び名(略称)が「全附連」です。

詳しくは全附連ホームページで。 <http://zenfuren.org/>